



第14号
平成26年3月9日
発行
熊本市北区
高平 2-20-35
曹洞宗 浄国寺
編集者
中山 義昭

平成二十六年 春季彼岸会法要

今年、例年以上に気候の寒暖の差が激しいと言ふより異常気象と言ふべき状態になっています。皆様、体調は大丈夫でしょうか？この春も例年通りに、先の日程で春季彼岸法要を営みます。
日時 三月二十四日(月)
午前十一時開式



前回の通信でお知らせしましたが、昨年七月七日に、寺の庫裏の階段を踏み外して転落し、第三腰椎を圧迫破裂骨折してしまい、9週間、熊本市の機能病院に入院してしまいました。幸い外科手術は免れましたが、八月の初盆や、その間の葬

儀や法事の方々には大変なご迷惑をかけてしまい、申し訳ありませんでした。又、お見舞いその他、多くの檀信徒の方にお氣遣い戴き、更にご心配をかけてしまいました。この場を借りまして、御礼とお詫びを申し上げます。幸い現在では、コルセットも外れ、日常生活には不自由なく生活をしております。仏道を通じて衆生の済度に励めという仏様の意志と思ひ、頑張つて、更に精進に勤めます。宜しく御願ひ申し上げます。

晋山式の挙行

予定では、昨年の十一月に修行する予定にして

浄国寺春季彼岸会

日時 平成二十六年三月二十四日(月)

午前十一時より

彼岸会檀信徒総供養

法話 熊本市宇城市小川

妙音寺 副住職

池田 智道 師

簡単な弁当を用意しております。出欠及び人数を同封の葉書で返信下さい

いたしました晋山式も、今年十一月九日(日)に行う事が決定致しました。丸一年間延びましたが、準備を整えて、檀信徒の皆様にも納得して戴けるような住職就任式を挙行する予定です。晋山式の詳細な内容や意味は、後日送付する寺報に書かせて戴く予定です。気持ちを変えて、再度引き締めを臨みます。

仏教に親しむ

一昨年より「いま、心にZEN」と題して、今を生き抜く為の仏教をテーマにイベントを行つ

てきています。今年は、私の晋山式も挙行しますし、一つの節目として、より多くの人の生きる一助となるような企画を考えてまいりました。勿論晋山式当日(前晚から儀式は始まります)は、時間や労力的に無理がありません。行うなら、きちんとした形で行いたいと考えて、次の日程で、今年の第3回「いま、心にZEN」を開催します。

講演会「仏教と生きる」

十一月十六日(日)午後二時
講話 南 直哉 老師
師は、曹洞宗きつての論客、早稲田大学文学部卒業後、一般の職に就くも



てくれて今回の実現となりました。

出家。大本山永平寺にて二十年以上雲水修行の生活を送る。執筆著書や対談集も多数。特に社会評論家の宮崎哲弥氏との対談は白眉のもの。実体験や生活に裏付けされた上で徹底した理論と実践は、現代を生きる我々に多くの示唆を与えてくれます。特に、現在院代を務められている青森県の恐山に移られてからは、理屈っぽくなりがちな禅的な議論に、理屈を超えた人の思いや情の重要性が加わり、説得力を増しています。多忙な老師に御願ひするのは不可能だと思つていました。私の師の修業時代の仲間が伝える

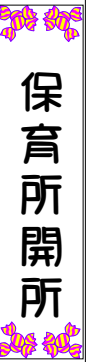
音楽会「BASS TA LK」演奏会

十二月六日(土)夜



年に一度、世界的に有名なジャズベーシスト鈴木良雄氏に浄国寺に来て演奏をしてもらっています。氏は渡辺貞夫グループでデビュー以来、四十年にわたり世界的に活躍されている音楽家です。特に私が学生時代に彼の音楽を聴きベースを弾くようになったという経緯もあり、現在では音楽上の師匠としてお付き合いさせて貰っています。今回は一昨年の演奏の時、みんなに大変喜んでいただきました。特別に組んでくれた浄国寺の為に、私も喜んでおりました。

保育所開所



これも、前号に書きましたが、寺と併設の幼稚園(学校法人浄国学園 高平幼稚園)に乳幼児の為の保育施設を開所しました。国が平成二十七年から施行する新しい認定こども園制度に対応できるようにするのが目的です。幼稚園は私立学校であり、法律上3歳からしか受け入れできません。現在マスコミで騒いでいる待機児童問題は、殆どが0歳から2歳までの乳幼児の受け入れ先の問題です。私は幼稚園長として、3歳までは親と一緒に過ごす方がこどもの成長の為に望ましいと思っています。国の子育て支援も、親と子を引き離して施設で代行して預かる支援ではなく、親が家庭で安心して生活できるようにするのが子育て支援の政策ではないかと考えています。しかし、国は労働力の確保(男女共同参画社会は必要ですが、それを錦の御旗にして税収の為の女性就業支援をしているように思えます)を中心に政策を進めています。在宅育児支



歯止めはかからないし、子どもも健全な成長にも問題があります。しかし現実の政策が、親の就業支援に向き、しかも若い保護者の世帯収入が低いという現実の前には、家庭教育支援を中心に据えた乳児施設の開設が必要だと考え今回の開設に踏み切りました。認可外保育所になりますので、運営は厳しく行政の指導は親子の触れ合う時間の減少の方向なので、苦渋の選択でした。子どもが人間として幸せに成長するように努力するのも僧侶の務めであり、仏様が与えてくれた勤めだと思ひ、あと一踏ん張り精進するつもりです。壇信徒の方には、不自由な思いをさせるかも知れませんが、何とぞご理解戴きますようお願い申し上げます。

東北大震災から三年

東北大震災から丸三年が経過しました。現場の復興は進まない中、復興税廃止は前倒しで行われようとしています。津波は、天災だと思いが原発被害は人災だと思えます。引き金の天災は対応できませんが、人災には手立てがある筈です。仏教では、人間の脳みそや浅知恵を過信するなと戒めています。原子力は、まだ人知で完全に制御できる物ではない、謂わばパンドラの箱ではないでしょうか？オリニックを招致したいがために、総理が平気で「放射能はコントロール下にある」と明言するのが日本の現状です。我々は自然と共に生かされ、生きていたいことを忘れないようしたいものです。



坐禅会への誘い

毎週木曜の定例坐禅会だけでなく、熊日生涯学習プラザの坐禅会(私が講師を務めています)も少しづつ参加者が増えていきます。身近に坐る機会があるのも一つの縁です。一度 参加してみま

身辺雑記

グローバルイズムという言葉が街場に氾濫し始めて久しい。しかし言葉だけが独り歩きしているようだ。本来は、地球全体、世界に通用する事を意味しているように見えるが、実際は、「英語を公用語にしよう」とか、きちんと自己主張できる技術を身につけるとか、諸外国と経済や貿易の世界で肩を並べるとか、その一部だけが強調されているのが現状だ。そして、最終的には共通分母である、貨幣経済を思考回路の中心に置き、つまり総て損得勘定に換算して勝者となることが目標になっているよう思える。それも個人の自立の美名の下に各々が自分の利益を最大にする事が優先事項になっている。アメリカの新自由主義経済が基盤のようだが、我が国に当てはまるだろうか？。日本は、長く農耕社会であった。農耕作業は共同体で行う事が前提になる。それは、村落共同体であったり、「家」であったりするが、共同体の利益が、自分の利益という側面が強い。だからこそ、互助の精神が生まれ、仏教で言う「利他行」「善隣行」も生活の中に存在できた。共同体の利益を最優先に考える時、そこから得られる個人的果実の計算を、優先するだろうか？グローバルイズムの内容が、個人の利益の増加と、合計の増大が主たる目的になってはいないだろうか？